

わかば

2019. 9. 28

(令和元年)

第19-22号

文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 **一人一人が輝く教育** ～期待登校・満足下校～(2年次)

400人学校になりつつあります・・・児童生徒数の経年データから見てくること

下記のデータは、数年にわたる児童生徒数の推移を表したものです。本年度は4月以降から、転出転入を経ても400人近い数を維持しています。

昨年10月から翌3月までの間で12名が転出し11名が転入しました。出入り数の差が少ないことから、本年度も同じよう傾向であれば、来年3月の数は、400名前後ではないかと推定しています。

令和2年4月当初は、410名以上になるものと推定しています。まさに、400人を超える学校になりつつあります。

このことは、どのような学校経営上の課題が考えられるかと言えば、

- (1)学級数 (2)一学級の児童生徒数 (3)学年学級の教室割 (4)職員数及び教員確保
- (5)カフェテリアのテーブル数 (6)スクールバスの台数、ピックアップポイントなどに、影響したり考慮したりすることになります。

これらのことをしっかりと踏まえ、2020年度に臨んでいきます。 ※表は、概ね毎月1日の数です。

全校生徒数(年度別、月別)						
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1月	341	353	379	362	365	366
2月	343	360	382	364	365	371
3月	343	355	377	359	365	372
4月	359	388	392	383	384	391
5月	362	386	391	387	379	398
6月	360	387	389	386	379	402
7月	344	375	372	368	356	386
8月	336	376	362	362	353	402
9月	347	380	365	362	362	397
10月	356	378	366	370	365	
11月	356	381	365	373	360	
12月	355	382	366	372	363	



児童生徒の作品紹介17



4年「どっちがすきか」の作文、6年「平和」をテーマにした作文を紹介します。校長 信國



4年生 作文

「ごはんとパン、どっちがすきか」



菅 優菜

わたしは、パンのほうがごはんより好きです。なぜかというと、パンのほうがごはんより種類が多くていろいろなパンが食べられるからです。おいしいものもあれば、あまりいいと思わないパンもあって、いろいろなパンの体験ができるからです。もう一つ理由があります。それは公園やハイキングに行く時にいっしょにもって行くのが楽なのです。パンをサンドイッチにしてラップにつつんで紙ぶくろにいれば全部すてられてもって帰らなくてすむのです。このような理由から、わたしはパンのほうがいいと思います。みんなはどうですか。



中村 悠真

ぼくは、どっちがすきかと聞かれたら、たぶんごはんです。なぜかというと、米がなかったらみなさんのすきなカレーやかつどんが食べられないからです。ぼくのもう一つの理由は、お米で食べられるものはたくさんありますが、パンで食べられるのはあまりありません。ぼくのさいごの理由は、米アレルギーの人はいませんが、パンのざいりようにアレルギーを持つ人はいます。君は、これを読んで、米はなくなってくれたら、うれしいです。

※(派)

4年生 作文 ※続き



大洞 成未

わたしは、パンよりごはんの方が好きです。その理由は三つあります。一つ目は、ごはんの方がいろんな食べ方ができるからです。たとえば、いろいろな種類のつけものやカレーライス、オムライス、ふりかけです。ほかにもいろいろな食べ方ができます。二つ目は、ごはんは日本のいなかでよくつくられています。それに日本のほとんどのスーパーに米はうっています。コンビニのある所には、れいとうごはんをうっています。三つ目は、こむぎアレルギーの人より、米アレルギーの人の方がだいぶ少なく、ほとんどの人が米を食べられます。これらの理由から、わたしは、パンよりごはんのほうが好きです。

確かに手軽に持ち運びのしやすさからすれば、パンの方が利便性はいいように思います。手軽に口にひょいに入れて食べたり、歩きながら食べたりできます。ごはんは、やはりおにぎりにしないと、なかなか手軽とはいきません。

一方、ごはんはどうでしょうか。炊き立ての熱々のごはんに、ご当地名産の物をのせて食べるのもおいしいものです。福岡県人としては、やはり「辛子めんたい」ですね。みなさんは、何をのせられますか。

作文を読み、ご家族で「ご飯とパン、どっちが好きか？」を話題にしていだければ、一層楽しい食卓になるかもしれません。でも、くれぐれもけんかなにならないように願います。

ちなみに、私は65年間、ごはんまで生きてきたので、やはり「ごはん派」ですね。欲張りで、パンも大好きです。



6年生 作文

「未来の平和を保つために」

市川 仁菜

平和な暮らしが、ずっと続くことは、よりよい未来に欠かせないことだと思います。そのためには、物をムダにしないこと。私は、これが平和への第一歩であり、よりよい未来への第一歩だと考えます。

授業で、平和な暮らしを保つていくためには、何ができるか、何が一番大切かをみんな考えました。私は、地球温暖化を防ぐことが、一番大切ではないかと考えました。それには、物をムダにしないことが、地球温暖化を防ぐための一番効果的な方法で、家でみんなが簡単にできることなのです。このことから、今の平和な暮らしは、自分たちが努力して守っていかねければならないものだということを、改めて実感しました。

地球温暖化について、私はインターネットでもっとくわしく調べました。地球温暖化は、気温が上がることで、主な原因は、二酸化炭素とメタンです。

一番の原因は二酸化炭素で、自動車、または飛行機を動かすこと、電気をつくること、ゴミを燃やすことなどによって、生み出されます。

二番目の原因は、メタンです。牛や豚などの家畜のゲップや天然ガスを掘り出すときに生み出されます。

※下へ続く



※上からの続き

地球温暖化が続くと、どんな影響があるかというところ、海の水が増え、陸地が減る、動物や植物が少なくなる、気候が変わる、病気（伝染病）が増える、食べ物が少なくなるなどです。ここまで調べて、地球温暖化がどんなにおそろしいかを学びました。

これをどうやったら防げるかを調べたところ、ちょっとした距離を自動車に乗るのをやめる、物をムダにするのをやめる、例えば、誰もいない部屋の電気を消す、エアコンの温度をひかえめにする、などが見つかりました。

「平和」と聞くと、何か難しく、複雑なもののように感じるかもしれませんが、このように、身近なことからも考えることができるのです。

ただし、地球温暖化を防ぐためには、一人で努力しても、みんなが協力しないと効果が無いのではないかと思う人もいます。もちろん、一人ではあまり効果がないかもしれませんが、他の人もえいきょうされるかもしれません。言いかえると、一人でも努力すれば、第一歩になると考えられます。

私は、今の平和な暮らしが続くことを願っています。そして、平和な場所が少しでも増えてほしいと思います。私にできることは、物をムダにしないことです。単純なことには聞こえるかもしれませんが、それが平和につながる、よりよい未来につながるのだと思います。



6年生 作文

「戦争から平和へと変えるために」

桑原 玲奈

私達はどんな暮らし方をしているだろうか。学ぶために学校に行く。おなかを空いたらおやつを食べる。何かほしかったら、おこづかいをためて買う。

そんな私達は幸せだ。やりたい事ができる、また、ほしい物を自分が努力すれば手に入れることができる。そういうことをあたり前に思っている人もいるかもしれない。けれど、それは大間違いなのだ。

世の中には戦争がまだ沢山起こっている。それに、戦争で戦うために私達の世代の人達が数えきれないほど、命をおとしているのだ。

そこで私は考えた。なぜ戦争が起きるのか、また、何が原因で戦争が始まるのか。私が考えた理由は、人と人、国と国の意見が違ったり自分の国だけが利益を得ようとしたりして、おたがいの国のことを考えなくなってしまう時に起きる「考えの違い」だった。

私はアメリカに長く住んでいるから、いろいろな国の人達と関わるチャンスが沢山ある。

そんな私にできる事は、自分の国の文化を伝えたり、今までに学んできた他の国の文化や考えを伝えたりすることだと考える。

このように、おたがいの考え方を理解できる人達が増えれば戦争はなくなると思う。難しいかもしれないけれど、少しずつでも、この世界を平和にしていきたいと思う。





日本も近年、ゲリラ豪雨や甚大な台風災害、これまでと異なった台風進路など「日本の気候は、いったいどうなってきたんだ」の思いがあります。世界的に見ても、異常な気象下にあるようです。折からの国際的な温暖化対策への関心が増し、特に、スウェーデン人少女のグレタ・トゥーンベリさんの抗議活動を契機に世界的な運動へとなっています。

まずは自分たちから出来る物をムダにしない行動は、小さな一歩ですが、誰もがすれば巨大な第一歩になります。グレタさんの一歩が何百万人の一歩となったように。我が家の一歩は、野菜や果物のゴミを家庭菜園の肥料がわりに埋めていることです。

お互いを知ることから、人は親しみを増していきます。互いのことを紹介し合う、知る場面を多く作ることは、友好の第一歩でしょう。相互理解が深まれば深まるほど、穏やかな暮らしにつながり、世界のどこでも平和な営みが送れるはずなんです。

6年生ともなると、ずいぶんとしっかりとした文章が書けるものだと感心しました。

「百聞は、一見に如かず」・・・良い手本は進んで、紹介することは大事です。

保護者の皆様も学生時代に体験された「社会科見学」は、まさに「百聞は、一見に如かず」の分かりやすい例です。現地に赴き、実際に目で見て、耳で聞き、鼻で嗅ぎ、口で味わい、手で触れて感じる事が、同じことを百回聞くよりも、より効果的です。外国暮らしもしかり、観光もしかりです。

転入してきた子どもの様子はどうかと教室をのぞくと、先生が一冊のノートを手し、ノートの良さを語ってました。

「〇〇に書きましょう」「〇〇にするといいですよ」と言えば、わからないこともないでしょう。

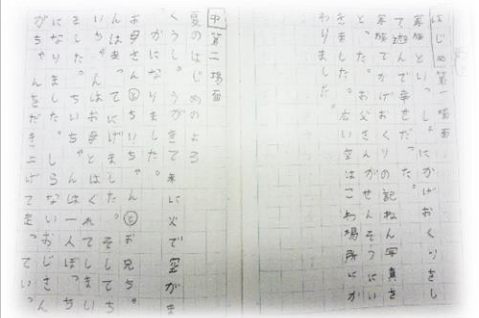
しかし、言葉だけの指導より、写真(上)のように手本となるノート(下)を参考モデルで見せながら、何がいいのか、素晴らしいのかを示していく指導の方が有効と思います。

担任時代は、これはと思ったノートを、本人の承諾を得てコピーして、何が良いか、素晴らしいかを朱書きのコメントを入れ、ノート名人コーナーに掲示していました。

子どもは、「こう書けばいいんだ」「こんなやり方もいいな」と気づき、模倣をします。

一般的な文章中心のノート以外にも、

- ① オリジナルキャラクターが、説明や考え方を示すノート
- ② 四コマ漫画風に、起承転結で示すノート
- ③ はじめに、次に、そして、最後に、結論と示すノートなど、それぞれの子どもの持ち味がありました。



掲示物 中学1年生のお勧め本の紹介・・・来月中旬まで掲示します。是非ご覧ください。

わかば19号でご紹介した、中学部1年生の校長授業参観「私が選んだこの一冊 読書紹介をしよう」で、生徒たちが作った個性豊かな「紹介ポップ」(写真)を学級別に、カフェテリアのホワイトボードに掲示していますので、是非ご覧ください。

右側にある「私が選んだこの一冊」の文字は、生徒たちが自発的に協力して作ってくれたものです。先生は、大変喜んでました。

さて、今月中に、海外子女教育財団から30冊以上の新しい本が届く予定です。書籍名やいつから貸し出しが可能であるかを、近日中にわかばでご紹介します。お楽しみにお待ちください。

